



2021年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年1月12日

上場会社名 株式会社 技研製作所
 コード番号 6289 URL <http://www.giken.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森部 慎之助

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 前田 みか

TEL 088-846-2933

四半期報告書提出予定日 2021年1月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年8月期第1四半期の連結業績(2020年9月1日～2020年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年8月期第1四半期	7,039	20.0	1,263	190.2	1,254	172.5	820	262.3
2020年8月期第1四半期	5,867	△12.7	435	△66.8	460	△65.7	226	△74.0

(注)包括利益 2021年8月期第1四半期 919百万円 (261.4%) 2020年8月期第1四半期 254百万円 (△71.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年8月期第1四半期	30.00	29.90
2020年8月期第1四半期	8.31	8.27

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年8月期第1四半期	48,926	38,439	76.7
2020年8月期	49,708	38,411	75.5

(参考)自己資本 2021年8月期第1四半期 37,516百万円 2020年8月期 37,551百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年8月期	—	35.00	—	35.00	70.00
2021年8月期	—	—	—	—	—
2021年8月期(予想)	—	35.00	—	35.00	70.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年8月期の連結業績予想(2020年9月1日～2021年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	12,800	△11.6	1,300	△47.8	1,300	△48.7	800	△52.6	29.23
通期	27,100	10.0	3,150	26.1	3,200	14.6	2,100	49.9	76.74

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年8月期1Q	28,059,028 株	2020年8月期	28,058,028 株
② 期末自己株式数	2021年8月期1Q	692,915 株	2020年8月期	692,915 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年8月期1Q	27,365,779 株	2020年8月期1Q	27,260,444 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、国内の公共投資は堅調であるものの、新型コロナウイルス感染拡大の世界的な長期化の影響により、民間投資の動きは弱まっており、このような状況を背景に、顧客の設備投資に対する姿勢には慎重な傾向が見られました。

当社は2020年11月、1967年の創業以来、初の代表取締役社長の交代を行いました。新経営体制のもと、経営方針「インプラント工法で世界の建設を変える」を掲げ、最重要課題であるグローバルエンジニアリング企業への転換を加速させる取り組みが、国内外でスタートしております。

国内における工法普及活動では、自然災害からの復旧・復興事業や将来に備えた事前防災・減災対策、社会インフラの老朽化対策など国土強靱化施策を中心に、インプラント工法の適用範囲の拡大に取り組み、海岸堤防や岸壁の整備、高速道路リニューアルなどで工法採用が増加しました。また、近年多発する大規模水害の原因である河川堤防の決壊についても、堤防の本質は国民の命と財産を守ることであり、絶対に壊れてはいけない「責任構造物」でなければならないことを国民に強く訴えかけ、関係省庁にも粘り強く提案と交渉を続けており、インプラントロック堤防などのインプラント構造による抜本的な対策の実現に向けた取り組みを進めています。

海外展開では、設計・調達・施工を含むトータルパッケージでのソリューション提供を基本方針として、各地域の市場に合わせた提案活動へと転換を進めています。問合せ件数は増加傾向にありますが、圧入原理の優位性を最大限に発揮できる案件、また、建設の五大原則を高次元に遵守できる案件を選別して提案を行っています。大型プロジェクトについては、オランダ・アムステルダム市の運河護岸改修では、2021年9月からの実証施工に向け、護岸構造の設計や機械開発、プロジェクト体制の構築など、準備を進めました。ブラジルの鉦潭ダムに対するソリューション提案では、構造設計や施工計画、資機材供給など採択に向けて協議を進めています。また、2020年10月に販売代理店契約と指定工場契約を結んだ中国河北省の天遠社には、サイレントパイラー3台を販売し、圧入市場拡大の準備を進めました。

また、当社グループでは、社員が健康で健全に働ける職場、ワークライフバランスの実現を目指して健康経営と男女参画の育児休業取得を推進しています。2020年10月には、当社独自の男性の育児休暇取得に関する取り組みとその成果が評価され、「イクメン企業アワード2020」でグランプリを受賞、日本一の荣誉に輝きました。今後も社員幸福度と技研グループのブランド力の向上に努めてまいります。

このような状況のもと、当第1四半期連結累計期間における売上高は、7,039百万円（前年同四半期比20.0%増）、営業利益は1,263百万円（同190.2%増）、経常利益は1,254百万円（同172.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は820百万円（同262.3%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①建設機械事業

国内の公共土木工事では、600mm幅U形鋼矢板に比べて経済性・施工性に優れた900mm幅ハット形鋼矢板へと、本設工事に用いる杭材の移行に進展が見られました。その杭材に適合したサイレントパイラーF301-900を含め、大型特殊機の販売が好調に推移したことにより、売上高は5,043百万円（前年同四半期比49.6%増）、セグメント利益は1,318百万円（同93.9%増）となりました。

②圧入工事業

インプラント工法は、緊急性や重要性の高い防災・減災工事や災害復旧工事をはじめ、海岸堤防や河川護岸の構築、岸壁の改良や橋脚などの耐震補強、道路の延伸や改良など様々な工事に採用されており、当期予算通り工事は順調に推移しています。しかしながら、前年同四半期と比較した場合、大型工事が減少したことで、売上高は1,996百万円（前年同四半期比20.0%減）、セグメント利益は393百万円（同7.9%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ782百万円減少して、48,926百万円となりました。これは、現金及び預金等の流動資産の減少1,418百万円に対し、建物及び構築物等の固定資産の増加636百万円の差引合計によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ810百万円減少して、10,486百万円となりました。これは、電子記録債務等の流動負債において735百万円、長期借入金等の固定負債において75百万円の減少があったことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ28百万円増加して、38,439百万円となりました。これは、為替換算調整勘定等の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2020年10月9日公表の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,882	5,591
受取手形及び売掛金	5,272	5,988
電子記録債権	1,693	1,917
製品	5,247	4,496
仕掛品	1,895	1,855
未成工事支出金	26	25
原材料及び貯蔵品	3,753	3,651
その他	711	537
貸倒引当金	△3	△5
流動資産合計	25,477	24,058
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,056	6,741
機械装置及び運搬具	13,560	13,501
土地	9,563	9,662
建設仮勘定	1,151	1,149
その他	1,324	1,335
減価償却累計額	△11,905	△12,128
有形固定資産合計	19,749	20,262
無形固定資産	352	335
投資その他の資産		
投資有価証券	1,238	1,237
繰延税金資産	1,799	1,906
その他	1,107	1,141
貸倒引当金	△14	△15
投資その他の資産合計	4,129	4,269
固定資産合計	24,231	24,867
資産合計	49,708	48,926

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,333	1,522
電子記録債務	2,429	1,176
短期借入金	870	512
未払法人税等	392	466
前受金	2,802	2,943
賞与引当金	562	144
その他の引当金	8	24
その他	1,095	1,967
流動負債合計	9,493	8,758
固定負債		
長期借入金	707	650
製品機能維持引当金	34	27
退職給付に係る負債	80	74
その他の引当金	0	1
その他	980	974
固定負債合計	1,803	1,728
負債合計	11,297	10,486
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,843	8,844
資本剰余金	10,020	10,021
利益剰余金	19,439	19,302
自己株式	△304	△304
株主資本合計	37,999	37,863
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△95	△96
繰延ヘッジ損益	5	4
為替換算調整勘定	△352	△250
退職給付に係る調整累計額	△5	△4
その他の包括利益累計額合計	△447	△347
新株予約権	503	568
非支配株主持分	355	355
純資産合計	38,411	38,439
負債純資産合計	49,708	48,926

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2019年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年9月1日 至 2020年11月30日)
売上高	5,867	7,039
売上原価	3,690	4,249
売上総利益	2,176	2,789
販売費及び一般管理費	1,740	1,525
営業利益	435	1,263
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	3	0
不動産賃貸料	9	8
為替差益	8	—
保険解約返戻金	—	9
その他	8	10
営業外収益合計	32	28
営業外費用		
支払利息	2	2
不動産賃貸費用	0	0
為替差損	—	33
その他	4	0
営業外費用合計	7	37
経常利益	460	1,254
税金等調整前四半期純利益	460	1,254
法人税等	248	433
四半期純利益	211	821
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△14	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	226	820

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2019年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年9月1日 至 2020年11月30日)
四半期純利益	211	821
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	63	△0
繰延ヘッジ損益	△9	△2
為替換算調整勘定	△11	101
退職給付に係る調整額	0	0
その他の包括利益合計	42	98
四半期包括利益	254	919
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	258	920
非支配株主に係る四半期包括利益	△3	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

・税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

・会計上の見積り

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した、新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りの仮定について、重要な変更はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

- I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年9月1日 至 2019年11月30日)
報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益計 算書計上額(注)2
	建設機械事業	圧入工事事業			
売上高					
外部顧客への売上高	3,371	2,495	5,867	—	5,867
セグメント間の内部 売上高または振替高	527	70	597	△597	—
計	3,898	2,566	6,464	△597	5,867
セグメント利益	680	426	1,107	△671	435

- (注) 1. セグメント利益の調整額△671百万円には、セグメント間取引消去△122百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△549百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年9月1日 至 2020年11月30日)
報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益計 算書計上額(注)2
	建設機械事業	圧入工事事業			
売上高					
外部顧客への売上高	5,043	1,996	7,039	—	7,039
セグメント間の内部 売上高または振替高	223	60	284	△284	—
計	5,267	2,056	7,323	△284	7,039
セグメント利益	1,318	393	1,711	△447	1,263

- (注) 1. セグメント利益の調整額△447百万円には、セグメント間取引消去18百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△466百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。